

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和6年2月16日(金)

みんなの居場所

雑感

季節的には三寒四温の日々が続くであろうこの時期、中々それが感じられないのが地球温暖化の影響なのだろう。1月はあつこい間に行っていたが、2月も半分が逃げてしまった。3月はどれほどのスピードで去っていくのだろうか。

この時期の教職員は、忙しさを押し付けられ、最大の要因は、学習の準備不足である。準備不足で年度中は定期異動の事も気になる季節だからだ。

私は6年生担任が多かったせいだが、この時期が嫌ではない。卒業まで残った時間を教員と子どもで過ごす。楽しんでいられる。もう少しでお別れという寂しさもあつたが、その後の繋がりにも期待感をもち送り出したものだ。私はたまたま半日時で子ども達の笑顔や姿に救われてきた。1日がらもあつた。子どもに辛くても、子供達のためならどんな高い壁も乗り越えていく。

【雑感】伸びの足は…

息子が読んでいたスポーツ選手の自伝を読む機会があった。第一線活躍する選手の共通点がある。①素直であること ②真面目であること ③向上心があること(負けず嫌いな)ことだ。本を読んでいると面白くないところがあった。あるサッカー選手の言葉である。「少くともいねれど、面白くないな」。た、ひねくれたことは精神的な成長に伴い、なほの進めることが多く、高学年児童が普通の生活の中へおぼろげく(不貞腐れて)いるのは開口である。この本の著者から言わせれば、「この世では伸びの足は、状況だ」。

そのころは私の教員で陸下競技(中長距離)をやっていた子がいる。箱根駅伝「ニューイヤークラッシュ」に参加した。実は今年の強豪会ではポーターとして参加した。この子は最近の周囲への感謝を口にする。私は、当該担任して子ども達へ「ま、ま、ま」言葉の謙虚さ、感謝の心を忘れず、人格は完成している。「等々」等々と言っていたが、彼はそれを体現して行っている。それは何かを諦めず、そのペースとなる考え方を示している。そこで、私が読んだ本(ある地球科学者の話)の中にも同じような書かれていた。「変わらぬが、強さとなる。変わらぬが、強さとなる。心身の進化はあつた。」「1日は、1日」に限らず、日々の小さな仕事でも同じだ。失敗や挫折の経験がない人は成功体験ばかりを人に押し付けて、アツク出てくる。鏡をみてほしい。

私たちが教師の仕事も例外ではない。社会や企業が求める人材は常に変化する。教師その様な未来社会に目を向けて人材の育成していくのである。その書物は面白い。常に自分のスキルアップ、社会のニーズを探る、それに合わせて精神状態を更新し、若手だろうがベテランであろうが、真摯な、謙虚な、感謝の心をそこに併せて、情熱を持ち続けることかなければならぬ。私は思う。

シリーズ「自分を語る」#156

令和6年度、長尾第一小学校での強豪会が終わり、5日後の2月27日、信じていたようにコースが報じられます。

「安部監理」は27日の新型コロナウイルス感染症対策本部で、全国の小中学校で高校特別支援学校「臨時休校を要請」の考えを表明した。3月27日から春休みの期間で実施を求めた。

私がこの時まだ学校で業務の真ん中でした。何となくネットニュースを見ていて、速報としてこのニュースが出たのです。最初は何のこゝろか言われていたが、自分分らない状況が続く。深呼吸して「えっ、えっ」と思ひ始め、キーンとつきました。表現がはっきりした状況の中、取り敢えず校長先生に連絡を取り、明日から想定される美術館をイメージしながら、できる準備を進め、教育委員会からの連絡を待ちつつ待機してました。

この速報が出たのは木曜日のことです。そのころは2月27日(日)に休校になるという準備ができていた。2月27日(日)は金曜日。その報道があった日の次の日のことになった。このころから大騒ぎになってきました。報道があった日は取り敢えず、子供達に対しての連絡事項の準備、職員への連絡、安心メール等について保護者と地域への周知徹底等を行っていました。

次の日、職員室は「引上げ」の役割を担い、多くの情報集約及び提供、指示命令等を行って、正に最前線基地となりました。担任の先生は春休みの宿題の準備、生活指導等で忙しさを押し付けられています。何か新規の連絡の必要がある場合は、迅速に行う。各教員を私達が訪問したのと同じ。何か連絡を終え、職員室に集って来た担任の先生は、夕方の声を掛け、午後からの会議に備えました。この会議とは、子供達の連絡をどう行っていくのか、登校日や設定するものか、学習のチェックは等々、多岐にわたりました。

3月27日からの休校の問題については、学習の未読部分や授業の時間数、通知表、修了式、卒業式…、多々の年度中に集中して行なう関係です。教師の性(性格)も、気になつて仕方ありませんでした。未読部分については、休校期間の終了後に改めて学習の進捗を把握して安心ですが、卒業式や修了式は参観型で行うのか等、次々と決断を迫られる現場でした。結局、卒業式は参加者(校長、教員、保護者)のみの実施で実施しました。しかし、修了式は全校児童が参加する(参加者)のみの実施で実施しました。

この時期、教職員の間で「引上げ」は、年度末の定期異動です。私自身、自分がかうなるのを見当もつきませぬので、本人への連絡があるまでは気がなかつたことを思い出します。心の中は「お、お、お」の辺の学校ではないだろうか。「等々」皮算用をされているのが、「人事はひらき」皮算用通り「ひらき」は、あります。私の場合、一度も参観型通りになつたことはあつた。

休校が続く中、そして、休校延長が囁かれる中、本人の目の下になりました。校長室に緊張しながら入ったことを覚えています。校長先生からの一言…
「澤田教頭先生、退職願を書いてください。」 「うた~~~~~まだか〜?」
人生での節目の、その得意の退職願です。~~~~~(泣)~~~~~(泣)